

しずおか 県民児協だより

42

第42号
令和3年9月1日発行

[題字：静岡県民生委員児童委員協議会顧問 天野隆玄 書]

編集発行／静岡県民生委員児童委員協議会 〒420-8670 静岡市葵区駿府町1-70 静岡県社会福祉協議会内 ☎054-254-5224 ㊚054-251-7508



令和3年度 静岡県民生委員児童委員協議会事業によせて

静岡県民生委員児童委員協議会会長 杉本 正

皆様、書面上ではございますが「こんにちは」、昨年春より発生しています新型コロナウイルスの感染防止として、令和3年度静岡県民生委員児童委員協議会総会は止む無く、書面審議による開催とさせていただきます。本紙掲載をもつて令和3年度にあたってのご挨拶を申し述べさせていただきます。

新型コロナウイルスの出現は、感染予防・拡大防止のために「新しい生活様式」を参考にした生活が推奨されています。しかし、今後の新型コロナウイルスの終息が見通せない中でも、民生委員・児童委員が従来から地域に暮らす方々に声を掛け、生活を見守りながら多くの関わりを積み重ねてきました支援活動を止めるわけにはいきません。今日、思い通りに活動が出来ない日々は、歯がゆく、もどかしい気持ちであろうとご拝察いたしますとともに、そんな中においても地域の人々を思い、「あのお宅・このお宅、あの人・この人」と地道な活動をされている皆さんがおいでになることは、敬服するとともに誇りに感じます。

この様な社会や地域の状況に私達の活動を照らした時、また地域の期待や民生委員・児童委員自身の自負に応えるためにも、静岡県民児協の令和3年度重点推進目標につながるものとして、「地域のつながり、地域の力を高めるために」各々地域の身近な問題や課題など共通する状況を持つ単位民児協や小グループ等

で話し合いなどを実施し、地域住民や行政、支援機関等と連携した支援施策を展開することが、実践的に自らがつくる民児協活動の強化策につながるものと思います。「よく見るといふことは、よく気付くこと」と申されますが、この小グループでの話し合いは委員の支援活動の醸成にもつながり、それを言い換えるならば「相手が困っていること、喜ぶことがわかってくる」ようになることだとも思っています。

その他、重点推進目標には、▼「地域の子育て応援団」として安心して子育てができ、子供たちが健やかに育つ地域づくり、▼平常時から、災害に備えた要配慮者への地域住民や関係機関との連携、▼人権を尊重した地域づくり、▼民児協活動の基盤強化、▼研修の充実など、静岡県地域福祉支援計画（第4期）等を参考に「ともに生きる豊かな地域共生社会づくり」の推進役として各委員の皆様にご理解・ご協力のお願いと皆々様の益々のご発展とご健勝を祈念し、挨拶とさせていただきます。

このコロナ禍の今日、くれぐれも、ご自身とご家族の安全が最優先です。諸活動にはご無理のない範囲でお願いいたします。

なお、末筆ではございますが、静岡県民児協の諸活動に対し、静岡県並びに静岡県社会福祉協議会をはじめ各関係支援機関のご指導・ご支援に感謝申し上げます。

富士市「プレパママと

先輩パママ交流事業」の紹介

◆富士市の概況◆

富士市民生委員児童委員協議会は、22の法定地区で構成され、地区委員390人、主任児童委員44人、合計434名を定数として活動しています。

富士市は、世界遺産富士山の広大な南麓に広がる県東部に位置しており、温暖で豊富な地下水に恵まれ、全国有数の「紙のまち」として発展してきました。富士市の総人口は、251,317人で、市町別人口は浜松市、静岡市に



続いて静岡県第3位となっております。

一方で、平成30年度における出生数は1,661人、令和元年度は1,593人、令和

2年度は1,566人と、出生数は年々減少傾向にあり、また現代の親子の抱える悩みは一つではなく複雑な場合も少なくあります。この現状に対し、富士市では、多様な悩みを抱えるすべての家庭への支援を行うため、妊産婦や子どもの成長を見守り親子を孤立させない地域づくりを目指そうと進めてきました。

このような中、平成25年度、当時の主任児童委員代表から、「地域における母子支援活動に力を入れていきたい」、「連携していきたい」との声が上がり、平成26年より、希望する家庭の



自宅へ市の保健師と主任児童委員が訪問し、身体測定やこどもと母親の健康相談等を行う「見守り訪問」を開始しました。そして平成29年度には、「プレパママと先輩パママ交流事業」を、天間地区をモデル地区として開始し、以後、開催地区

◆事業について◆

を増やし実施しています。



「プレパパママと先輩パパママ交流事業」は、民生委員・児童委員、主任児童委員と富士市が協働して行っている事業で、同じ地域に住む親同士や民生委員・児童委員、主任児童委員と

当日の内容は、グループトークをはじめ、手遊び・親子遊び・絵本の読み聞かせや、子育て支援センター、公園などの地域の子育て資源の紹介を行っています。実際に参加したプレパパママからは、「先輩パパママ

家庭には郵送でお知らせをしています。

のつながりをつくり、地域の中で気軽に子育ての話や相談ができる人を見つけ、また、パパママで協力して子育てすることの大切さを知ってもらうことを目的として行っています。対象は、開催地区周辺に住むプレパパママと、1歳程度の幼児を子育て中のパパママとしており、対象となる

の話が聞けてよかった」、「出産前に必要なもの、不必要なものを知ることができてよかった」、「市内の子育てに関する情報を得る機会がなかったので、参加できてよかった」といったお声をいただきました。さらに、前回開催時には、プレパパママとして参加していた方が、翌年度の開催時には、先輩パパママとして参加して下さることもあり、人と人とのつながりの大切さや、交流事業が地域のつながりを深めることに結びついていくことを強く実感できています。



場で実施し、令和3年度については、感染症対策を講じ新しい生活様式に合わせて24地区15会場で開催する予定です。今後も、親が安心して子どもを産み育てることができ、また子どもが健康やかに育つ環境を築くために継続して活動していきます。

令和2年度

は、交流事業を16地区11会

湖西市民生委員児童委員協議会

「児童福祉部会活動報告」

「3ヶ年の取組」

◆湖西市の専門部

◆会活動は1期3年◆

部会員は女性19名、男性7名の26名で児童福祉部会の未経験者が8割でした。部会活動開始に当たり、運営委員会を組織して3ヶ年計画の骨子とタイムスケジュールの作成を先ず行いました。

- 1年目は児童福祉に関わる基礎知識の習得をする。
- 2年目は児童福祉に関する視察や関係者の生の声を聴き、我々委員としてできることを話し合い、実践しながら、体験をする。
- 3年目は担当地域で実践活動を踏まえ、現実に基づく事例紹介や意見交換で、スキルの向上と委員のレベルアップを図る。

◆初年度の活動◆

1年目冒頭は、未経験者が多く、専門部会設置規定に基づく活動の推進を如何に図るかを皆で話し合い、活動の主旨を理解し、組織的活動ができるよう委員の考え方に整合性を図ることにしました。

児童福祉法、児童憲章など子どもたちの基本的人権に関わる法的内容の座学研修で知識の習得と、関係機関との連携を中心に情報の共有活動を計画、実践しました。

情報の収集方法と応酬話法なども、相手を思いやることの大切さを、県西部児童相談所からレクチャーをして頂きました。

◆2年目の活動◆

2年目、1年目の活動に対する





る検証をアンケート形式で委員に実施しました。活動の満足度は95%と高い評価でした。検証の結果を成果と課題でまとめ、

次年度以降に反映させました。そのため毎年P・D・C・Aを行いました。

児童福祉施設は「和光寮」「三

方原学園」「まきばの家」「可睡齋」などを視察し、各施設での研修、意見交換を行いました。明治時代から児童福祉への対処を行って来た歴史と子どもたちへの奥深い思いを痛感しました。委員の精神修養も大切と考え、説法を頂き委員自身のメンタル的な強化や迷いの浄化も行いました。

◆3年目の活動◆

2年間の活動を検証し、それを3年目の活動に反映させ、より効果的な活動を目指しました。

2年間で習得した知識・技能が、委員に自信を与え、担当地域において積極的に児童福祉活動を推進することができました。地域において積極的に児童に関わり、子どもたちの福祉の実態を知り、地域における子どもたちのあるべき姿を部会で話し合うことで、委員の活動範囲が拡大して効果的な手法、対応策が生まれました。

家庭児童相談所の児童虐待実

例をもとに、日々の活動体験を事例研究とし、委員として、どうすればより高度な関わり方ができるかをグループ討議し、これに対する方法をグループごとに発表し、共有しました。その後、家庭児童相談所の講師から、虐待実例の結果と講評を頂きました。委員が早期段階で、積極的に関わりができていれば、もつと良い結果が生まれた可能性もあるなどの検証も行われ、スキルの向上や委員個々のレベルアップになりました。

◆3年活動の総括◆

● 毎年P・D・C・A（計画、実行、評価、改善）を行い、充実した部会活動ができたと思えます。

● 成果は、児童福祉に関する新たな考え方や体験を取り入れ、実際の委員活動に活かすことができたことです。

● 課題は、地域の子どもたちと接する機会が少なく、子ども目線での気持ちや思いが十分理解できなかったことです。

ひろば

コロナ禍の一年で



熱海市
民生委員児童委員協議会

櫻井 順子

熱海市民児協は4地区法定民児協にわかれ委員数は130名です。私の所属する第一地区は、駅周辺の商店街や昔ながらの集落など環境は様々ですが、高齢化率は年々高くなっており
ます。

新任委員を迎えての本格的な活動を開始する4月に「緊急事態宣言」が発出され、どの様に対応したらいいのかと困惑しました。コロナ禍の中で委員自身も外出自粛などで孤立感を深め、又民生委員としてどの様な活動が出来るのかと悩みました。

従来通りの訪問活動が出来ない中、少数での会合やLINE等を活用して、委員同士の連携を密にする事が大切だと考えました。会合の中で、高齢者から相談を受けたり問題点を見つけたりした時、一人で行動しないで他の委員に相談したり関係機関に連絡する「つなぎ役」として活動し、情報を共有する等という事を話し合いました。

民生委員活動は一人ではできない。仲間と共に活動する大切さを学んだ一年でもありました。初めてのこの経験を今後の活動に生かす事ができたと思います。

連携することの大切さ



三島市
民生委員児童委員協議会

宮川紀代美

小さな光が見えて来ました!!
2年目を迎える新型コロナウイルス感染症は私達の日常生活を大きく変えてしまいましたが、大切なこと・大事なものを考えるきっかけになったと思います。
高齢者の身近な相談役として地域の窓口となり、必要な専門機関につなぎ、可能な範囲でワクチン接種の「お助け隊」として協力しています。三島市との連携です。

一年を通して、最も重要な「避難行動要支援者」調査も再開され、対象者に2年ぶりに訪問。個々の悩み・課題等は異なりますが、対象者の話を傾聴し、受け止めるだけでは対応できない問題が多々あります。その都度「地域包括支援センター」に連絡・一緒に訪問、どの様なケアが必要か。連携です。

町内会から推薦され民生委員児童委員として27年。その間に町内会長は13人変わり、地域では高齢化が進みました。

町内会長から、町内役員に対し民生委員児童委員の役割について、また町内の諸問題・現状・対象者等の説明依頼があり、会合を開催しました。望んでいた町内会との連携。

結果、要支援者を各區ごと把握し、見守りを私たちと共に行いましょうと。大きな光が見えた瞬間!!

ワクチン接種・感染防止対策を十分に行い、各関係機関との連携を大切に民生委員児童委員活動を実施していきます。

コロナ禍における活動



清水町
民生委員児童委員協議会

原 とく

一昨年 クルージング船から降りてくる新型コロナウイルス感染者の映像をテレビで見た時は、世界を揺るがす事態になるとは思いもしませんでした。

活動の基本となる総会を書面決議にしてスタートしたものの定例会を開催できず資料送付の2か月を過ぎましたが、昨年6月から感染対策を取ったうえで定例会を開催しております。新型コロナウイルス感染拡大により中止や延期せざるを得ない事業が続く中「災害時における民生委員活動」に目を向けての研修会を行い、委員全員が防災ラジオを持ち災害時にスムーズに情報が伝わるように致しました。(6月27日にシミュレーション実施)

又、静岡医療センター附属静岡看護学校より依頼を受けての在宅看護論演習の授業で学生とのグループワークは、初めての経験でしたが若い学生さんに民生委員・児童委員活動を知って頂ける良い機会でした。

ワクチン接種も進み少しずつ社会が戻りつつあります。安全を第一に新任委員さんに重点を置いた協議会運営を進めて参りたいと思います。

ひろば

子育て家庭をあたたく見守る



小山町
民生委員児童委員協議会

湯山 薫

主任児童委員を引き受け一年半です。子どもの現状を知ろうと他の2名の仲間と放課後児童クラブやこども園の見学、町の相談員さんと面談等、情報収集から始めました。

今も続けていますが、小さい町ですので子どものことは教育委員会がしっかり把握・対応してくれています。学校や関係機関とのつなぎ役も、今のところ出番は無さそう：他に「地域の力」で何ができるのだろうかと考えました。思いついたのが、「子育て家庭をあたたく見守る」です。

町には「きんたろう広場」という未就園児と親御さんの施設があります。仲間と月に2回位そちらへ出かけ、親子を見守ることを始めました。

広場では、「こんにちは」「元気いっぱいです」「頑張つて！」等々、場に合う言葉かけをして回っています。また、時には読み聞かせに加わって子どもにも語りかけてもいます。さもない言葉かけでも、回数が重なるとお母さんたちが私たちに心を開いてくれ、子育ての質問をしてくるようにもなりました。

あたたかい言葉かけが親御さんと子どもの心を潤し、親子のいい関係ができる。それは子どもの環境を良くすることに繋がる。地区でも「あたたかい言葉かけ運動」を拡げなくてはと考えているところです。

委員活動の一步一步



川根本町
民生委員児童委員協議会

八木 朝子

『子どもは地域の宝です。』を合い言葉に、民生児童委員としての活動をしています。「パスワードが解けたぞ！」

と、子ども達の喜びの声が聞こえます。交流活動『寺子屋』では、ウォークラリーを実施しました。グループで神社や案山子探しをしながらパスワード探しです。途中、民生児童委員がクイズを出題したり安全対策の声掛けをしたりしました。コロナ禍の中、計画から実施まで何回も相談を重ね、今年は郊外での活動をしました。毎年の活動の積み重ねにより、子ども達と顔見知りになりました。私たち委員同士も絆が生まれ、信頼関係も深まりました。

また、児童委員活動として乳児宅に『赤ちゃん訪問』をします。祝品(茶箱等)のお届けと健康相談と交流です。この訪問を機に親御さんとの長い絆が繋がっています。

その他、登下校の児童の見守り、児童クラブのサポート、高齢者いきいきサロン活動、独居宅への訪問等々、民生児童委員が一丸となり取り組んでいます。

私達は、子ども達や地域の方に関わらせて頂き、元気パワーと繋がりをもらっています。今後も地域の皆さんの健康と安全安心の為に民生児童委員として活動したいと思っています。

和を大切に 絆を深めよう



御前崎市
民生委員児童委員協議会

四ノ宮 主

私が民生委員に就任してから10年余り、その直後東日本大震災が発生多くの人命、財産を一瞬にして奪ってしまいました。翌々年私達市の民児協は福島県南相馬市の職員、民生委員の方々の案内で被災地を視察させていただきました。大津波によりすべてのものが流され見渡す限り荒廃無残な光景でした。自然の恐ろしさを実感させられました。私達の住んでいる地域は美しい海岸線が長く続いており東海地震の震源域上にあり、常に注意が必要で。近年、大型台風、集中豪雨などによる災害も多発しています。温暖化の影響でしょうか。

昨年来、新型コロナウイルスが猛威を振るっています。ワクチン接種も始まりましたが希望する人全員が接種を受け、一日でも早くコロナを終息させ、マスク着用の必要もなく以前のよう、安心して暮らせる日が欲しいものです。

私の民生委員としての10年間、一人では解決できない大きな問題が発生した時に、地区の同僚委員と話し合い問題解決に至ったこともありました。よく人から民生委員は大変です、と声をかけられますが、私は決して大変だと思いません。民生委員は一人ではないからです。よき仲間が大勢いるからです。

民生委員・児童委員協力員制度について

◆協力員の委嘱人数◆

「民生委員・児童委員協力員」制度は、令和元年12月に、地域住民の協力を得ながら、助け合い支え合うことができる体制づくりと民生委員・児童委員の皆様の負担軽減等を目的に創設されました。協力員は令和3年8月1日時点で15市6町にて、121人(ペアサポーター110人、エリアサポーター11人)が活動しています。

市町名	ペア	エリア	市町名	ペア	エリア
松崎町	3	0	焼津市	4	0
伊豆の国市	13	0	藤枝市	3	0
清水町	3	0	吉田町	1	0
長泉町	5	0	川根本町	5	0
御殿場市	0	4	磐田市	4	0
小山町	3	0	掛川市	6	0
富士宮市	16	0	袋井市	21	0
富士市	12	7	御前崎市	2	0
島田市	2	0	菊川市	2	0
伊豆市	2	0	沼津市	2	0
			伊東市	1	0
			合計	110	11

◆エリアサポーターに社会福祉士が活動中！◆

富士市のエリアサポーターである秋山さんは、社会福祉士の資格を持ち、在宅介護支援センターの相談員を行いながら、協力員として活動しています。

主な活動は、民生委員からの相談を受け、その相談事例にあった関係機関につなぐための情報交換、担当地区の民生委員に対する活動に役立つ情報の周知等であり、ご自身の知識や経験を活かしながら民生委員の活動をサポートしていただいています。

静岡県では未だ有資格者のエリアサポーターが少ないため、今後このような人材、活動事例が増えることで、民生委員・児童委員の活動が一層推進されることを期待します。

- エリアサポーターに社会福祉士の方を希望される場合は、一般社団法人静岡県社会福祉士会（Tel.054-252-9877）へご相談ください。地域にお住まいの社会福祉士をご紹介いただくことができます。

※ ペアサポーター……希望する民生委員に1人まで配置が可能。民生委員との同行訪問等を行い、民生委員の活動を補佐する。

エリアサポーター……希望する地区民児協に3人まで配置が可能。困難事例の対応方法についての助言等を行い、地区民児協の運営補助を行う。

編集後記

年金支給日の六月十五日、金融機関（農協）の前で、民生委員活動の街頭啓発を行いました。
「民生委員です。民生委員活動や振り込め詐欺防止のチラシを配っています。」と言って渡そうとすると「いつも貰っているから、いいよ。」と受け取ってもらえません。
「この中にマスクが入っているの使ってください。」
「それなら貰おうかな。隣の家の人の分も貰えるかね。」効果てき面でした。
配布資料の中に、「ひとりで悩まず、民生委員・児童委員に相談してください。」と印刷した小袋にマスクを五枚入れたものを六十セット用意し、三十分程ですべて配り終えました。
すると、「農協の前でマスクを配っていると聞いたので、貰いに来ました。」とわざわざ自転車で来た人がいました。
そのことが地区定例会で話題となり、委員から高齢者宅等の訪問資料にもマスクを入れたらどうか、との意見があったため、さっそく六百セット用意することにしました。
振り込め詐欺防止や交通安全などのチラシを配っていますが、読んでもらえているのかと思うことがあります。
五枚のマスクが良いきっかけになってくれることを願っています。

(右)